

Q1
谷口真悠
さん

今、承認されて接種されているワクチンは全て海外製ですよね。日本で生産できればワクチン接種の需要に対して供給がスムーズにできるのではないかと思います。日本製のワクチンを作る上での課題について、先生はどのようにお考えですか？



A 岡田先生 なぜ国産ワクチンにはこのように時間がかかるのか、ということですね。これまでSARSやMERSなど新しいウイルスが海外で広がった時、幸いにも日本には入ってこなかったため、多くの国民はもしかしたら今回も入ってこないのではないかと考えていた節があります。自分だけは大丈夫なのではないか、といういわゆる正常性バイアスです。早くからワクチン接種を始めた諸外国では、これまで知られていないようなウイルスがいつ自国に持ち込まれるか分からないため、「ワクチン」は新しい感染症から国民を守る国の危機管理のために必要なものと考えています。日本は島国でもあり、2009年の新型インフルエンザ以降、新しいウイルスなどが入ってこなかったため、このような感染症に関する議論は厚生労働省の中だけで行われてきました。さらに、ワクチンが必要となった場合、実際の運用には多額の予算が必要で、財務省や総務省などにかけあって進めていくことになりますが、国にはいろいろな事案があるので優先順位を考えなければなりません。感染症対策はこれまで優先順位があまり高くなかったのですが、今回のコロナ禍でようやく省庁横断的に国全体で取り組む体制が整ってきました。



日本が開発に取りかかったのは、海外の企業と比べてわずか1カ月くらいの遅れだったと思いますが、今回のmRNAワクチンというのは全く新しいタイプのワクチンです。海外では、実際に応用できるかどうか分からない段階からこうした新しい技術などの基礎研究が進められ、開発費用も含めて早い段階で国からの支援があります。これまで日本では、国として承認したワクチンでないと議論もできませんでしたが、もちろん経済的な支援もありませんでした。企業や研究所、大学などが開発し、国へ申請をして、承認されれば、ようやく実用化に向けての支援を受けることができます。企業や研究所としては、まだ実用化できるかどうか分からないようなワクチンの開発にはなかなか手が出せなかったわけですが、今回初めて国が早い段階から支援してくれることとなり、現在4つの国内メーカーが開発試験を行っています。

続いて、ワクチンの開発試験の進歩の話です。今回のような新しいウイルスが出てきたときは、どのような動物や細胞で増えるのか、それが解ってから基礎研究として動物実験に移り、その後、マウスなどの動物での試験を行います。これらの試験が終了した後、ヒトでの試験となります。第一相試験は少人数ですが健康な方に接種し、大きな問題はないことを確認する試験です。続いて第二相試験では量や回数などを変えてみて、最も効率よく免疫ができる量や回数が決まります。第三相試験で多数の方に接種して、有効性や安全性を評価します。このような流れですので、これまでワクチンの開発から実用化までには5~10年かかっていたのですが、今回は米国で「ワープスピード作戦」と銘打って1年以内に実用化されました。この極めて異例の速さで達成できたのは、それぞれの試験を並行して行う、「加速並行試験」が行えるように制度が変わったからです。現在は、海外製のワクチンがようやく全国民に行きわたるくらいの数量が入ってきそうですが、確約ではありません。世界中で取り合いになっていますし、政治の手段にもなっています。僕は政治の手段として使ってはほしくないです。日本国民を守るという観点からは、供給不安がつきまとう海外製のワクチンだけでなく、国産ワクチンができるだけ早く実用化していただきたいと思っています。

Q2
野上舞
さん

地域によって入ってくるワクチンの数量が違ったり、職域で実施したりしなかったりなどワクチン接種の差が出てきているのは、国産ワクチンが開発されていないため需要と供給が上手くいっていないから、ということでしょうか？

A 岡田先生 まさにその通りです。ワクチンの供給については契約があります。日本では何万本入ってくると正式に決まったのは今年2月のことです。それまでは「供給しますよ」という合意だけだったようで、今でも正確に何万本入ってくるか分からない状態です。今回のように国がワクチンを買って、自治体に配布し無料で接種するというやり方は、初めての試みです。予防接種の実施主体は国ではなく、国民に近い地方自治体です。人口の多いところに多く供給されるので、自治体からも苦情が出ているのが現状です。国産ワクチンがあれば、いろいろな不安は解消されますよね。



教えてドクター！

新型コロナウイルスワクチンについて

世界中で流行している新型コロナウイルス感染症。この感染症に歯止めをかける手段として開発された新型コロナワクチンは、国を挙げて接種が進められています。しかし、メディアやインターネットにおいてさまざまな情報が飛び交う中で、ワクチンに疑問や不安を抱く方も少なくありません。今回は、そんなワクチンに関する素朴な疑問点を、専門家として各方面で活躍されている福岡看護大学の岡田先生に聞いてみました！（取材日：2021年7月30日）

教えてくれた先生

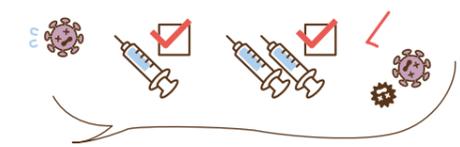
福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 教授
福岡歯科大学医科歯科総合病院 予防接種センター長 **岡田 賢司 教授**
福岡看護大学基礎・基礎看護部門基礎・専門基礎分野教授。福岡歯科大学医科歯科総合病院では予防接種センター長を務め、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い学内に開設した『福岡学園コロナウイルス管理室』の一員としても感染拡大の防止に向けた取り組みを行っている。また、日本ワクチン学会理事長や厚生労働省における各種部会、委員会の参考人も務めている。



今回インタビューしてくれた学生

福岡看護大学
保健師養成課程 第4学年

- 谷口真悠さん
- 野上舞さん
- 熊谷祐香さん
- 皆森雅人さん



Q
岡田先生

若い人はワクチンに対してためらいがあると思いますが、それは副反応に対する不安ですか？それとも自分たちが罹っても軽症だから何とかなるだろう、という感じですか？

A 熊谷さん 未知のものすぎて周りの人の多くが打ったら打ちたい、というぐらいだったのですが、新型コロナウイルスがこんなに流行するとは思っていませんでした。祖母が高齢なのでこのままだと会えなくなると思いましたし、看護師になるならいつかは打たなければならぬと思ったので、時期に関係なく打とうと思いました。環境ですね。

A 谷口さん 私はワクチンを打つか打たないのかとなった時、まだよく分からない状況だったので不安でした。でも一番に考えたのは、もし私が罹ったら周りの人に迷惑がかかるということでした。実習で病院や施設に行ったりするので、自分の症状云々より周りへの影響が気になりました。メリットがあると感じたので、打つことにしました。祖父母にも会いたい気持ちもあり、打ったら安心してもらえると思いました。あとは新型コロナウイルスに罹った、と差別されるのが怖い気持ちもあります。

A 皆森さん 変異株がどんどん出てきている中でファイザー製ワクチンを打って意味があるのか考えてしまい、もう少し先に打とうと思いましたが、これまでのお話を聞いて打ちたいと思いました。

A 野上さん 大学から「受けますか」とアンケートが来た時に、すぐ「受ける」と選択しました。祖母と同居していますが基礎疾患である喘息があるということと、母が介護職なのですぐに決めました。でも周りに聞いた時、「国産なら受ける」という声が多くあったので、国産じゃないから不安という人は多いと思います。

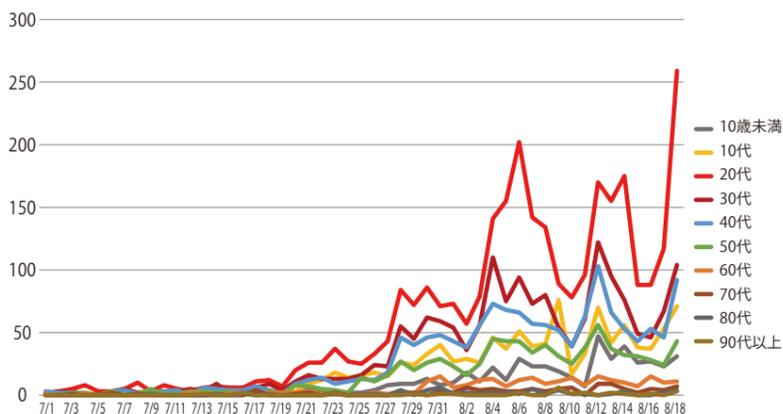
岡田先生 先日尾身先生(新型コロナウイルス感染症対策分科会/会長)が「危機感の共有」ということをおっしゃっていました。いくら人流を制限しても若い世代と僕ら高齢者との間にはジェネレーションギャップがたくさんあります。国内の状況について若い人たちと危機感を共有しないといけないけれど、共有する手段を僕は持っていません。正確な情報を伝える手段がないのです。少なくとも若い人に正確な情報を伝えなければならぬというつもっています。僕らがよく読む新聞には多くの情報が書いてあるけど、若い人が見ているSNSやインターネットでは検索して興味のある情報だけに行き着きます。その部分の情報はどんどん深くなるけれど、偏った情報になりやすいでしょう。自分たちが不安に思っていることは、一人で悩まず、みんなで議論して共有した方がいいですね。



DATA

若い世代で感染が増加していることについて

福岡市での発生状況 日別事例数(年齢別内訳)



出典：福岡市「福岡市での発生状況 日別事例数(新型コロナウイルス感染症)」(2021年7月1日～8月18日)

皆森さん 僕は看護学部の大学に行っているため、感染対策などについては日頃からしっかり行い体調管理などもしていますが、経済学部や工学部に行っている高校の同級生には、まん延防止等重点措置が出てたにもかかわらずお酒を伴う飲食や旅行に誘われたことがありました。このようにまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が出ていることに慣れたことに加えて、大学生は時間に余裕があり遊びたいと考えている人が多いと考えられるため、自然に感染に対する意識が薄れて若者の感染者数が増加しているのだと思います。

Q3

熊谷祐香さん

接種が始まって日にちが経っていないのですが、数年後にワクチンの重大な副反応が判明することもありますか？

A 岡田先生 それは誰にも分かりません。例えば、ここで吸っている空気、今日食べた物、もしかしたら10年後にこの食べ物は食べてはいけないものだったと言われる可能性はありますよね。それと同じで、目に見えない不安は全てのものにあります。ワクチンを接種するかどうかを考えると、副反応だけでなく、ワクチンを打つメリット、そして病気になった時の病気の怖さも併せて考えなくてはなりません。若い人は症状が軽いから大丈夫だと思っている人がたくさんいて、ワクチン接種をためらっている声も挙がっています。確かに若い人は軽症かもしれないけれど、後遺症が残るリスクは若い人の方が高いとする報告があります。ワクチンを打つと「不妊になる」とか「磁石がつく」とかよく分からないデマに近い情報に踊らされず、情報リテラシーとして、自分自身で正しい情報なのかどうか判断しないといけません。今はいろいろな情報を検索しやすくなっていますので、どこからの情報なのか見極めることが必要となります。不安に思う時は周りの人たちと話をするだけでも違うと思いますよ。できるだけ不安を解消してください。



Q4

皆森雅人さん

デルタ株やラムダ株などの変異株について、ワクチンはどのくらい有効なのでしょう？

A 岡田先生 分かっているのは、今のワクチンである程度対応できそう、ということです。新型コロナウイルスはRNAウイルスです。本来RNAは非常に不安定で、2週間に1回は変異が起こっているといわれています。ですから、どこでも小さな変異は起こっているわけです。ワクチンが広く接種されて多くのヒトが免疫をもつようになると、ウイルスは自分が生き残るために、そのワクチンが効かないような変異を起こすとされています。変異が起こるスピードとワクチンや治療薬ができるスピードとの勝負です。どのような変異が起こるのかは人知を超えていますから、もしかしたらウイルスの方が賢いのかもかもしれません。私たちがこうやってウイルスにプレッシャーをかければかけるほど、変異のスピードは速くなりますし、よりワクチンが効かないウイルスが出てくるかもしれません。『いちごっこ』ですね。ウイルスは自分が増えるために生きた細胞が必要です。病原性を高めてヒトを倒してしまおうと宿主を失ってしまいますから、ウイルスは宿主を失わないように上手に付き合っていく必要があります。あと数年もすれば、この新型コロナウイルスは普通の風邪のウイルスになると予想する専門家もいます。このウイルスを撲滅するのは現時点ではなかなか難しいので、今の目標は感染して重症化して亡くなる人をできるだけ減らすことだと考えられています。ウイルスと上手に付き合っていくようにしている“with コロナ”ですね。変異株であっても重症化は多くありませんが、感染性は高くなっています。みんなが免疫を持ってしまったら、ウイルスは増えていけないでしょう？だから人に感染しやすくして、人の中で増殖して生き残ろうとしているわけです。ですからこれからも新しい変異株はいろいろ出てくると思います。



対談を終えて

熊谷祐香
さん

自分の疑問や同級生がどう不安を持っているのかを共有することができてよかったです。日本製のワクチンについては、ワクチン製造に至る日本の仕組みと海外との違いを初めて知り、ワクチンについてより興味が深まりました。

ワクチン接種を受けることや、感染予防行動について、自分の感じる小さな不安をみんなでさらけ出して情報と向き合いたいと思います。

お忙しいなか、インタビューに答えていただきありがとうございます。

皆森雅人
さん

ワクチンのことで正直分からないことがたくさんあったのですが、変異株のことや需要と供給のこと、社会情勢のことまで知ることができて勉強になりました。情報の収集はインターネットが多いので、保健師・看護師として働くときに対象者に正しい情報を伝えるためにもメディアリテラシーを意識しようと思いました。

谷口真悠
さん

日本と海外の情勢の違いについて、日本は安全面を重視するのでそれはとてもいいことだと思いますが、それが今回は少し裏目に出ているのかな、と感じました。日本の情勢が変化していることも知れましたし、勉強不足を感じましたのでもっと勉強したいと思いました。

野上舞
さん

国の危機管理の道具としてワクチンが位置付けられていることや、RNAウイルスが頻回に変異していることなど、知らなかったことがたくさんありました。皆森さんも言われたんですが、メディアリテラシーの部分では、これまで論文を検索するところまで行きつかなかったのですが、難しいかもしれないけれど学会誌など検索していこうと思いました。また保健師なら住民の方が得ている情報を知り、自分たちの情報との齟齬を確認し、対象者への対応を行わねばならないと思いました。

医科歯科総合病院で ワクチン接種を行っています

福岡歯科大学医科歯科総合病院では、
新型コロナワクチン接種を行っております。
接種を希望される方は下記にてお申し込みください。



インターネットでのご予約

インターネットでの接種予約を希望する場合は、接種予約サイトをご利用ください。予約には接種券が必要です。

<https://vaccines.sciseed.jp/fukuokacity/>

※パソコンやスマートフォンからアクセスできます。



電話での予約・相談

電話での接種予約や相談を希望する場合は、コールセンターへお電話ください。予約には接種券が必要です。

福岡市新型コロナワクチン接種コールセンター

092-260-8405 受付時間：8時30分～17時30分（土曜日、日曜日、祝日も実施）

ワクチンに関する情報はお住まいの都道府県もしくは厚生労働省など
公的機関のホームページなどでもご確認ください！

厚生労働省 新型コロナワクチンについて

